



2014 4 April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

「見てください、レオンさん、ほら！」

薄桃色の小さな花を束で抱えて、フレイは本当に嬉しそうに笑った。彼女が毎日丁寧に世話をする作物も花も、どれも触れれば幸せが流れ込んでくるような、不思議な優しさがある。

そんな彼女の幸せのおすそわけで作った、この薄桃色の花冠。どう彼女に渡そうか。

そっと勝手にかぶせるか。甘い言葉とともに頭を撫でるか。それとも――。

彼女の反応を想像するだけで、レオンも幸せになる。きっとフレイは、たくさんの幸せを作り出す人なのだ。

「フレイ。」

呼びかければ彼女は、花のような笑顔でふわりと振り返った。

柔らかな翠の髪が草原のようで。

すぐにでも、この花冠を咲かせたい。

考えるより前に、レオンは彼女を引き寄せていた。

Illustration : 姫一 SSS : らに